

# 一般会計決算議案に対する討論の要旨

9月29日の本会議で平成28年度一般会計決算議案に対する表決に先立ち、各党派等から賛成・反対の討論が行われました。内容は、各党派等が一定のスペース内で自由にまとめたものを討論が行われた順番に掲載しています。

## 賛成討論

### 井澤市政の継続的な 行財政改革を評価



自民党新政会(所属8名) 尾澤 しゅう

本決算は井澤市長のゼロベース部局積み上げ方式の3年目となる平成28年度予算の検証となりました。結果としては報酬・委託料の支払いの遅延などいくつか個別に改善すべき事項があるものの、各課において適切な事務執行が行われ、行財政改革が進んでいることがわかる決算となりました。

平成28年度は国分寺駅北口再開発事業は勿論のこと、教育・子育て関連として「民設民営保育所の誘致」「親子ひろば事業の拡充」「小学校トイレの洋式化」「特別教室へのエアコン設置」、福祉関連では「認知症カフェの開設」や「未就学児のインフルエンザ予防接種費用を一部公費負担」等々の掲げた事業を着実に実行されています。そして財政に目を向ければ経常収支比率こそ92.9%と微増の結果となりましたが、国分寺市の後期財政計画の第一目標の数値は達成しています。同じように財政の硬直化を示す公債費負担比率の6.3%を始め、公債費比率2.7%、財政力指数1.026等の財政健全化を判断する指標は確実に改善をされ続けています。また、地方債の償還が進んだことで、一般会計と特別会計の合計未償還額は380億5,691万円となり、基金も約7億円を積み増すことに成功しています。

議会の一部からは財政が好転の傾向に向かっていることから拙速な財政出動を求める意見もあるようだが、これから高齢化社会を迎えるにあたって扶助費の増加や公共施設の修繕・立替え等の財政出動を考えれば、やはり今後も非常に厳しい財政状況であるのには変わりません。

井澤市長にはこれまで以上に積極的に行財政改革を進めていただき、国分寺市が益々発展するために尽力いただくことをお願いいたします。

## 賛成討論

### 財政健全化を評価 引き続き厳格な事務執行を



公明党(所属4名) 高橋 りょう子

#### 【財政運営全般について】

平成28年度は財政力指数の改善を始め、基金全体の増加と共に地方債の償還が順調に進み、未償還額が減少した。経常収支比率は少し後退したものの、臨時財政対策債発行抑制の効果が着実に出てきており、将来に亘る財政負担額が減少した。財政健全化への取り組みが改善に結びつき評価する。しかし財政資料からは他の自治体でも懸命に努力していることが認識でき、引き続き市民要望への対応と事業の充実を基本としつつ更なる業務効率化・経常経費抑制への取り組みを求める。

#### 【基金積み立ての重要性について】

子育て支援関係の補正予算の際、緊急的に対応出来たのは、この間の財政調整基金を始めと

する基金積み立ての努力によるものと評価する。庁舎建設資金積立基金(18億9,000万円)の再設置は今決算の大きな評価の一つである。安定した財政基盤無くして今後の少子高齢化対策、庁舎建設、公共施設のマネジメントを始め持続可能な国分寺のまちづくりはないと考える。

#### 【進行管理対象事業について】

長年の課題であったぶんバス万葉・けやきルート運行開始の実現は、過去の反省を踏まえ事務の進行管理を丁寧に進めた結果であり、他にも市の重要な多くの事業が前進した事を評価する。

【個別事業評価】 待機児解消の民設民営保育所誘致や前年度不調に終わった第六小学校洋式トイレ改修工事の実現、認知症対策や障がい者への合理的配慮等、多くの課題に前進が見られ事務事業の改善を評価する。国分寺駅北口再開発事業無事故の完成を始め、厳格かつ適正な事務執行に当たって頂く事を強く求め賛成とする。

## 賛成討論

### 財政健全化は道半ば、 より一層の奮闘を



国分寺政策市民フォーラム(所属4名) 及川 妙子

28年度予算は引き続きゼロベース部局積み上げ方式により編成され、「将来を見据えた財政健全化」と「中長期計画的財政運営」を目指して基金の積み増しと地方債の償還を進めることを財政運営の基本姿勢としていた。

一般会計決算は歳入460億4千万円、歳出450億5千万円、単年度収支は9億1千万円の赤字になったが実質収支は8億6千万円だった。

市税は4年連続増収であったが、経常収支比率は税連動交付金の減額により92.9ポイントと昨年度より2ポイント悪化した。しかし、実質収支比率は3.6%、財政力指数は1.026となった。

基金は前年度比7億増の44億円、地方債未償還額も170億6千万円から158億9千万円と減少した。

以上のことから財政状況については厳しいながらも健全化にむかっていることに同意見だ。

しかしながら今後のさらなる扶助費の増加や新庁舎の建設、想定外の支出も常におこりうることから予断を許さず厳しい姿勢で予算執行にあたってほしいと要望する。

支出の個別案件については、特に視覚障害者全員に声のCDの希望をとっていただいたように、すべての業務について市民の皆様の立場にたって丁寧に対応していただきたい。

また、子育て関連のショートステイ利用にみられるように、引き続きの事業であっても常に運用について適正であるか公正であるかチェックすることも必要である。コスパが良いかどうか、費用に対しての効果は、地方自治体であっても常に念頭におく必要がある。

財政健全化について明るい兆しがあるもののまだ道半ばである。職員の皆様のより一層の奮闘を心から祈念する。

## 賛成討論

### 少子超高齢社会に 備えた財政基盤を!



国分寺・生活者ネットワーク(所属3名) 高瀬 かおる

◆本決算では、歳入(約460億円)から歳出(約450億円)を差し引き、さらに翌年度に繰り越すべき財源を控除した実質収支額は、8億5,748万円の黒字となった。また、一般会計全体で、約7億円の基金を積み増すことができ、地方債においては、約11億7千万円の償還が進んだ。これらのことから、財政は一定好転していると考えられる。◆一方で、財政の弾力化をはかる経常収支比率は、前年度から2.0ポイント悪化し、92.9%となった。特に歳入では、前年度に比べ、市民税や固定資産税などの市税が約2億円増額したものの、地方消費税交付金や利子割交付金などの税連動交付金が市税の増額分を打ち消す減額となっている。税連動交付金等のいわゆる依存財源は、国や都の動向や景気に左右されるため、その動向には常に注視する必要がある。また、歳出においては、市では、待機児童解消のため、積極的に保育施設の誘致に力を入れているが、それに伴い、民設民営保育所の整備や入所児の委託に必要な経費が年々大きく膨らんでいる。今後も長期にわたって必要な経費だ。合わせて学童保育所の整備など、早急に対処しなければならない事業は多くある。少子超高齢社会をみすえ、社会の変化や市民ニーズにも柔軟に対応できる財政基盤を確立することが重要だ。国分寺市総合ビジョンに掲げる「平成30年度に経常収支比率90%未満」を達成する財政運営を求める。◆個別事業では、まちづくりセンター協働事業について、平成28年度に事業内容を大きく見直したが、応募する団体が未だにないとのことだ。この事態をしっかりと検証し、平成30年度に向けて、どのように進めるのか、早急に検討することを求める。

## 反対討論

### 市民の暮らしを守り 支える施策の拡充を



日本共産党国分寺市議団(所属3名) 岡部 宏章

一般会計決算に不認定の立場で討論します。消費税8%への増税や物価上昇の影響で実質賃金が下がり続け、市民の暮らしはますます追い詰められています。市は市民の暮らしを守り支える施策を拡充して、国の悪政から市民の暮らしを守るべきです。しかしそれにこたえる市政になっていません。根本的な要因は、莫大に膨れ上がっている国分寺駅北口再開発事業です。大型開発中心の市政から、市民の暮らしを支える市政へと抜本的な転換を求めます。

井澤市政において、市の最も基本的な計画である総合ビジョンは、市民参加が極めて不十分なまま策定されました。自治基本条例の立場に立ち返って、市民参加の取り組みを抜本的に改

次ページに続く▶